

令和8年度までの目標	国語		算数・数学	
	自校A B層の割合	59.6%	自校A B層の割合	49.1%

目標達成に向けた取組			
3つの観点	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	- 授業の冒頭に本時の学習の目標を示す。学習の見通しを持たせる。 - 自分で考え表現する時間を確保する。 - 目標の達成度（理解度、変容）を確認する。 - 授業の終盤に時間を確保し、学習内容をまとめ、振り返りを行い、自己評価させる。	学習習慣の定着を意図して 「学習コンテスト」 国語（漢字）、数学（計算）、英語（単語スペルコンテスト）を年3回実施する。 - コンテスト前1週間をコンテスト週間とし、朝学習と家庭学習にドリルパークを活用する。 - 放課後補習教室を実施する。 - 考査前補習教室を実施する。	「学習コンテスト」では、合格点の設定はせず、自己目標を設定。達成度を測り、家庭学習等の学習習慣と基礎学力の定着を図る。ドリルパーク活用。 「KGPノート」（K=家庭、G=学習、P=プロジェクト）を実施する。 - 与えられた課題だけをやるのではなく、自主的に課題を見つけて、主体的に学習に取り組む習慣を確立する。
特に支援が必要な児童・生徒への手立て	「自己目標」をノートに書き、授業後に振り返り「自己評価」し、「自己変容」を認識できるように支援する。 - 全員が自信をもって答えられる問題を授業中に数問を意図的に出題し、解答させるなど自己肯定感を高める。	学力向上委員会（学力向上プロジェクトチーム）で協議検討して対応する。 プリントワーク等の課題から、つまづき箇所を把握し、放課後補習事業者やドリルパークを使い、丁寧な指導と反復により早期に克服する。	- 放課後補習教室や個別の補習指導に誘導し、“わかる・わかった”を体感させるコンテンツと指導を行い、下学年対応も含め学習の楽しさと学習への意欲を醸成する。 - 機をとらえ具体的に保護者との連携協力を呼びかける。 - ドリルパークの活用。
成果指標	全国学力調査 「自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを作り出す活動を行っていましたか」肯定的な回答 現状78.4% → 85%以上	全国学力調査質問用紙 「授業の内容はよく分かりますか」当てはまる。どちらかといえば当てはまる。の合計 国語 82.4% → 90%以上 数学 70.6% → 80%以上 ・CD層（国、数）50%以下	全国学力調査 「授業時間以外の勉強時間」1時間以上の回答割合 現状58.9% → 80%以上